

## 第三章 その他

### 第1節 参考資料

#### 1 おおつ健康フェスティバル

高齢社会を迎えた今日、健康で生きがいをもって、人生を豊かに自分らしく、明るく暮らすことができる地域社会を実現するため、市民一人ひとりが健康を振り返り、あるいは体験を通して健康づくりを見直すきっかけとなることを目的として、平成3年から毎年実施していた。

しかし、令和2年度から令和4年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止となった。

## 2 研究及び外部での講演等の報告

### 【研究報告】

タイトル	大津市訪問看護の体制強化に向けた更なる取組
報告学会名	第 53 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	地域医療政策課 ○高田直美、野田由美子、龍池和隆、荒木浩一、中村由紀子
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>令和 3 年度に本市になかった機能強化型訪問看護ステーションを 3 か所整備した。今後、医療ニーズの高い在宅療養者の増加が見込まれる中、更なる訪問看護の体制整備が必要と考え、訪問看護の体制拡充に向け検討したので、その結果を報告した。</p>	

タイトル	大津市精神保健福祉に関する早期介入・支援事業の効果
報告学会名	第 53 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健予防課 ○平田浩二、一井由香里、西井弥生、杉山更紗、白子知美、松浦康之、中村由紀子
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>令和 4 年度に大津市精神保健福祉に関する早期介入・支援事業を開始した。本事業は、医療機関や各種相談機関から相談があった未受診、医療中断等の精神障害を抱えるものや精神障害の疑いのある者に、支援チームが早期に介入し継続的に関わることで、適切な医療やサービスにつなぎ、地域の一員として安心して暮らすことを目的としている。事業の効果について支援内容を分析し、効果について報告した。</p>	

タイトル	大津市における 1 歳 9 か月児健診事後フォロー教室について（第 1 報） ～教室の現状と今後に向けて～
報告学会名	第 53 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	健康推進課 ○竹内未央、中島美和、高田智行、谷脇奈緒、北村陽子、土肥祐香里
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>本市では、1 歳 9 か月児健診事後フォロー教室を令和 2 年度より開始したが、コロナ禍での教室開催ともなり、令和 3 年度より本格的に実施した。令和 3 年度の教室の現状と参加 104 組についてまとめ、報告を行った。</p>	

タイトル	大津市における1歳9か月児健診事後フォロー教室について（第2報） ～地域につなぐ保健師役割の考察～
報告学会名	第53回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健総務課 ○佐野実生、健康推進課 中島美和、竹内未央
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>1歳9か月児健診事後フォロー教室における保健師の役割について、アンケート結果を分析・検討。教室では、親子に対し、遊びを通じ具体的な成長発達の見通しを伝え、保護者と成長を共感できた。個別のアセスメントと教室内で関わった状況を加えた結果を地域担当の保健師に伝え、事業担当の保健師は切れ目なく育児支援を行えるよう確実な連携をしていく必要がある。</p>	

タイトル	コロナ禍における乳児期前半の育児について ～大津市南部地域の新生児訪問・4か月児健診のデータを基に～
報告学会名	第53回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健総務課 ○杉本麻衣、原田真衣、奥野圭子、中山利子、澤田康子、秋篠青美、大石達也、中村由紀子
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>今後の保健師の支援方法を検討するため、南すこやか相談所エリアの児を対象に新生児訪問・ハイリスク訪問の結果や、4か月児健診時のデータから実態を考察。母同士の悩みを共有する横の繋がりの場の減少が育児不安に繋がっていることが分かった。コロナ禍においても、コロナ前と同様に母が相談しやすい体制を整備することが重要であることを報告した。</p>	

タイトル	子ども発達相談センターを利用した保護者へのアンケート調査の報告
報告学会名	第53回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	子ども発達相談センター ○木村理加、龍田直子
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>令和3年度に中3でわが子が相談を受けた保護者21名に、「中学卒業後の子どもの様子」や「センターでの相談が親子にどう役立ったのか」等をアンケート調査し、小児期の発達支援の目的、意味・意義を把握し、学会で報告した。「親子の関係性を支える支援」は、子の「対話」にかかる変化・成長に寄与し、意義が大きいと考えられた。不注意・敏感さ・不器用さについて、保護者から見た子の変化・成長は少ない結果だった。今後も調査を重ね、早期介入と継続支援の有用性を検証していきたい。</p>	

タイトル	大津市子ども発達相談センターで相談を実施した思春期児童の現状。
掲載誌名、巻、頁	子どもの心とからだ 2022：31(1)：33-37
出版社	一般社団法人 日本小児心身医学会
著者名	龍田直子
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>センター開設6年の実績について思春期児童（小5～中3）を中心に報告した。思春期児童は低年齢児童に比し、心身医学や精神医学的な診たてと初期治療を目的に医師相談を要し、二次的な問題を呈する割合が高かったが、本人への支持的面接、家族心理教育、教育等との連携を中心とした多職種による支援で対応可能な児童が多かった。</p>	

【講演等報告】

タイトル	大津市における訪問看護の体制強化の取組について
発表者名	大津市保健所 所長 中村由紀子
講演会・研修会名	令和4年度 厚生労働省地域保健総合推進事業 全国保健所長会協力事業「医療構想と地域包括ケアの推進における保健所の役割についての研究」班 班会議
対象者及び参加人数	分担事業者・協力事業者・アドバイザー 20人
年月日	令和4年10月29日
主催者	日本公衆衛生協会
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>在宅医療提供体制構築に保健所が直接関わる先進的な事例として、本市の「訪問看護ステーション体制強化補助事業」等の取組を紹介した。</p>	

タイトル	大学生を対象とした食品安全啓発について 食品営業届出業種の現況確認調査について 特定建築物の監視指導について 浴場施設の監視指導について 温泉施設における基準値に係る相談事例について 専用水道における基準値に係る相談事例について
発表者名	衛生課 池永康子、井上聡美、山元麻祐子、川上貴大、石田和久
講演会・研修会名	第42回生活衛生業務研修会
対象者及び参加人数	大津市及び滋賀県職員 30名
年月日	令和5年3月15日
主催者	大津市、滋賀県
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>食品衛生、衛生営業、水道及び動物愛護にかかわる生活衛生関係職員が相互の研鑽を行い、最新の知見ならびに監視指導技術を習得し、職員の知識と資質を向上させ、もって今後の生活衛生行政の進展に寄与することを目的に、業務実績等について報告した。</p>	

タイトル	発達に課題をもつ乳児の早期発見と支援について
講演会・研修会名	令和4年度産後ケア従事者研修会
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
対象者及び参加人数	滋賀県助産師会会員等
年月日	令和4年11月21日～12月4日（オンライン配信）
主催者	一般社団法人滋賀県助産師会
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>発達に課題をもつ子どもの乳児期は、生理的な問題（機嫌、哺乳、睡眠等）や、協調運動発達の遅れ、発育不良、愛着形成困難等を呈しやすく、早期支援が非常に重要である。また、保護者自身が発達課題をもっていることで、子育てに困難をきたしている場合もある。そうした親子への適切な理解と支援につながるよう、助産師をはじめ乳児期の支援者を対象に、発達についての基本的な考え方、愛着の発達、発達障害、支援の要点、等について講義した。</p>	

タイトル	子どものこころや発達の診たて
講演会・研修会名	令和4年度発達障害児支援研修会（WEB開催）
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
対象者及び参加人数	大津市医師会会員 20人
年月日	令和5年2月4日
主催者	公益社団法人 大津市医師会
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>出生数は減少の一途をたどっているにも関わらず、子どものこころや発達の診療ニーズは増得続けている。複雑で深刻な症状や問題への対応には専門的な医療や支援が欠かせないが、初期対応や軽症例の診療について、かかりつけ医に大きな期待が寄せられている。そのため、かかりつけ医が子どものこころや発達に関する診療を行う上で求められる視点や姿勢を中心に講義した。</p>	

タイトル	第3章 発達障害と思春期 第4章 思春期とネットリテラシー・ゲーム依存
書籍名、出版社	思春期の診かた. 金芳堂
出版日	令和5年3月4日
著者名（共著）	龍田直子
<p>&lt;要旨&gt;</p> <p>第3章では、発達障害をもつ思春期児童の抱える心理的課題について、第4章では思春期に問題となりやすいネット、ゲーム関連問題について執筆した。</p>	